



# 羽咋市復興個別計画

## 〔栗生町地区〕

令和7年6月  
栗生町・羽咋市

# 目 次

1	復興個別計画の概要	1
	（1）復興個別計画とは	1
	（2）復興個別計画の構成	1
2	地区の現状と課題	2
	（1）地区の現状	2
	（2）地区の被災状況及び課題	4
3	復興に向けた取組事項	5
	（1）地区の防災力向上	5
	（2）ハード面の機能強化等	6
4	各種インフラ復旧に向けた取組等	7
5	資料編	8
	（1）復興個別計画策定手順	8
	（2）ワークショップ実施概要	9

# 1 復興個別計画の概要

## (1) 復興個別計画とは

令和6年1月1日午後4時10分に発生した令和6年能登半島地震では、本市においても震度5強（※推定震度6弱）を観測し、市内各地で液状化や家屋の倒壊など甚大な被害を受け、未曾有の大災害となりました。

これを受け本市では、被災者の住まいとくらしの再建、被災地域の復旧・復興、地域経済の再建など、住民が希望と夢をもって安心して住み続けることができるよう、令和6年8月に“羽咋市復興計画”を策定し、各種取組を進めています。

しかしながら、大規模な液状化が発生し、インフラ（道路、上下水道等）に甚大な被害を受けた地区等においては、復旧までに長い期間を要し、「いつになったら元の生活に戻るのか」「このまま住み続けることができるのか」など、地区の将来の姿が見えず、依然として多くの住民の方が不安を抱えながら生活しています。

このため、地区の実情に応じた、将来にわたってお住まいの地区に住み続けるための将来展望や、この実現に向けた地区の防災力向上等の優先すべき取組、インフラの復旧スケジュール等を明確にした“復興個別計画”を策定し、住民・地区・行政で共有することで、地区の復興に向けた取組を進めるものです。

## (2) 復興個別計画の構成

復興個別計画は、大きく「復興」と「復旧」に分け、取組事項等を整理します。

「復興」に関する内容は、令和6年能登半島地震を受けた地区の問題点・課題、これを踏まえた地区の将来像、この実現に向けた取組等について、地区住民が主体のワークショップで検討・協議した内容に基づき、整理します。なお、「復興」の取組については、住民・地区・行政が協働で取り組む必要があるため、下図に示す自助・共助・公助に分け整理します。

「復旧」に関する内容は、行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧の取組内容・位置及び実施スケジュールを整理します。

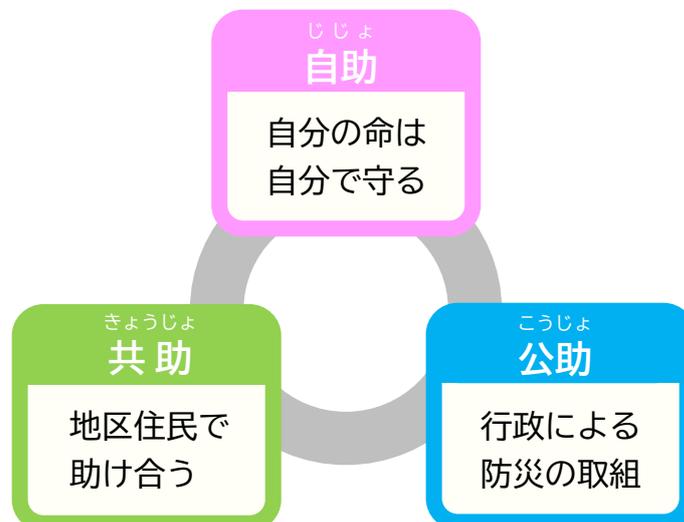


図 自助・共助・公助のイメージ図

## 2 地区の現状と課題

### (1) 地区の現状

#### 【概況】

粟生町地区は、中心市街地の南部に位置し、地区の大半は、山林や水田、畑を中心とした農地です。

羽咋市の中心市街地と金沢市方面を連絡する国道 249 号が幹線道路となっています。

地区内には、粟生町会館を有しています。また、地区内の避難場所として「粟ノ保小学校・運動場」、地区内及び近隣の避難所として「粟ノ保小学校・体育館」「粟ノ保公民館（仮）※」があります。

※令和 6 年能登半島地震により、現在、粟ノ保公民館が使用不可となっているため、粟ノ保保育所を仮の公民館として使用中。



粟生町会館



#### 【人口及び世帯数】

粟生町地区の総人口は 397 人、世帯数は 175 世帯となっています。

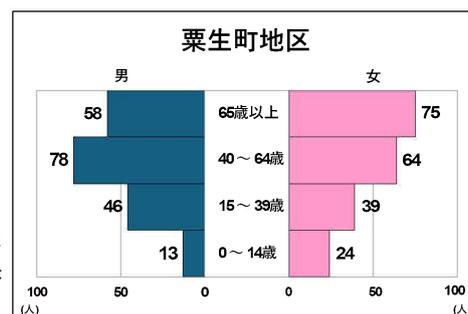
地区の老年人口割合は 33.5%となっており、市全域の老年人口割合（41.0%）を下回っています。また、年少人口割合（9.3%）、生産年齢人口割合（15～39 歳：21.4%、40～64 歳：35.8%）は、市全域の年少人口割合（8.8%）、生産年齢人口割合（15～39 歳：19.0%、40～64 歳：31.2%）よりも高くなっています。

今後は、高齢化の進行が予測されることから、地区のコミュニティ活動の維持等が困難になることが推測されます。

表 粟生町地区の人口（年齢 4 区分別割合）

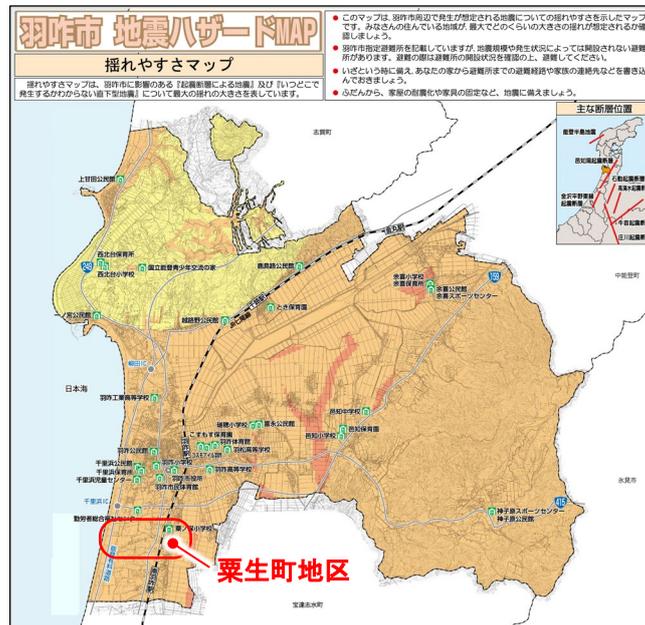
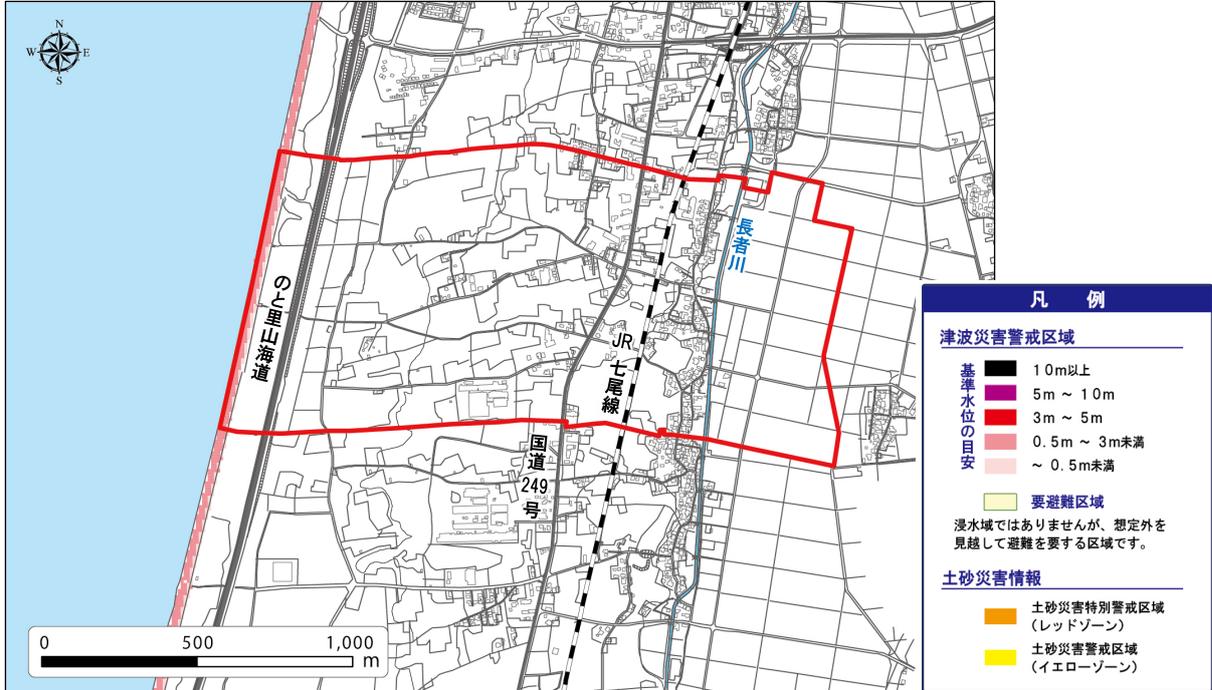
	年少人口	生産年齢人口		老年人口
	0～14 歳	15～39 歳	40～64 歳	65 歳以上
粟生町地区	9.3%	21.4%	35.8%	33.5%
市全域	8.8%	19.0%	31.2%	41.0%

※令和 6 年 4 月 1 日時点  
資料：住民基本台帳



【各種ハザードの指定状況】

粟生町地区は、海岸部に津波災害警戒区域（最大0.5m～3m未満）が指定されています。また、地震による地区の最大震度は6強が想定されています。

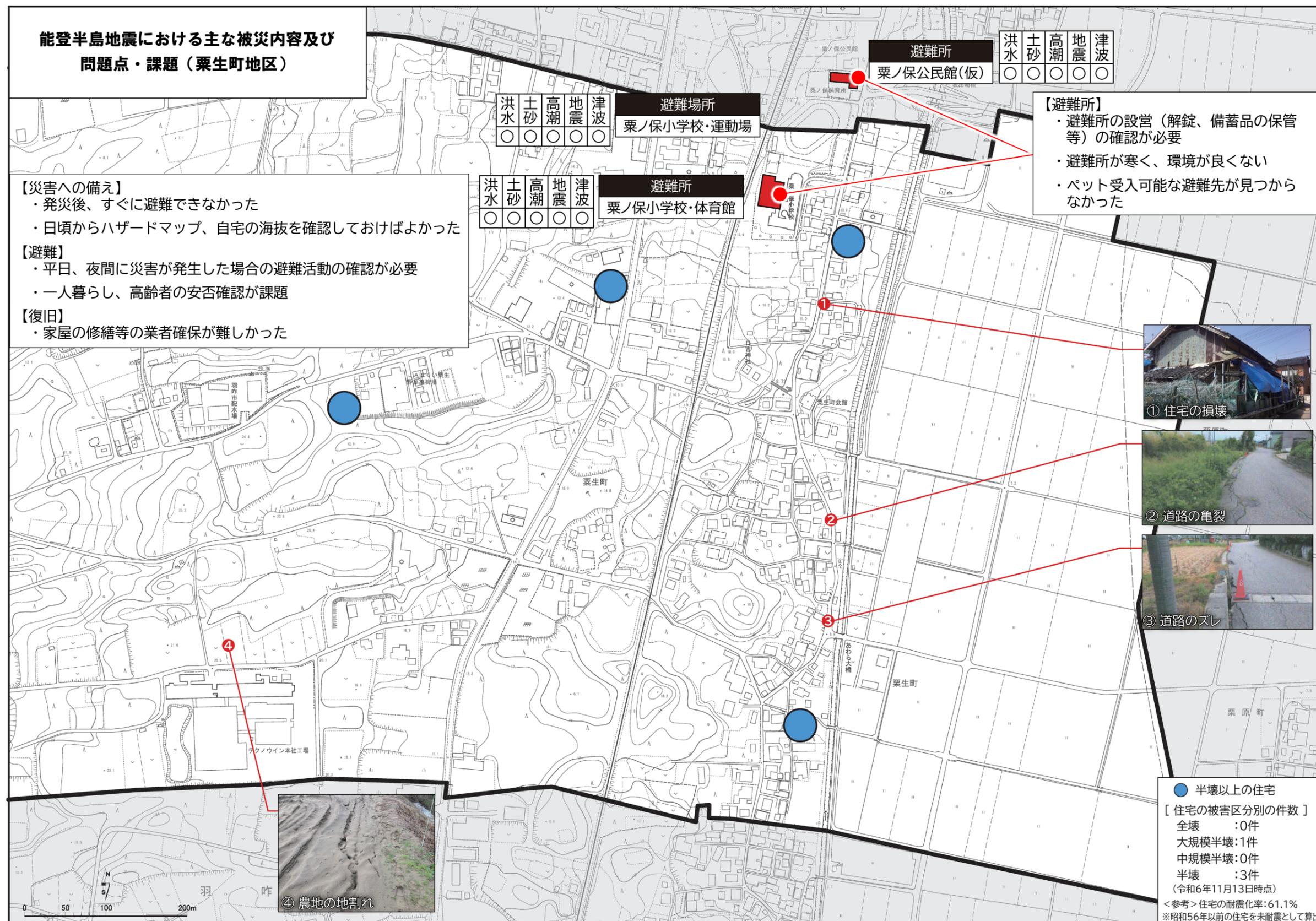


【耐震化率】

昭和56年以前の建物を未耐震として算出した場合（改修済みを除く）の粟生町地区内における建物の耐震化率は、61.1%となっています。これは、全国平均の耐震化率（87.0%）を大きく下回っています。上記規模の地震が発生した場合、令和6年能登半島地震（震度5強）よりも甚大な被害となる可能性があります。

(2) 地区の被災状況及び課題

令和7年1月に実施した「第1回 復興個別計画の作成に向けたワークショップ」でのご意見を踏まえた地区の被災状況及び問題点・課題は以下のとおりです。



### 3 復興に向けた取組事項

#### <地区の将来像>

#### みんなの“笑顔”が未来を明るく照らす 助け合いのまち

日ごろから地域のつながり・コミュニケーションを強化することにより、住民間で助け合い、みんなが“笑顔”で住み続けられるまちを目指します。

前頁の被災状況及び問題点・課題を踏まえ、“取組が必要な事項”“取組内容”“具体的な活動等”を自助・共助・公助ごとに設定します。

“取組内容”については、第2回ワークショップの検討結果に基づき、“◎：最重要取組事項”、“○：重要取組事項”として整理します。

#### (1) 地区の防災力向上

##### 【自助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な避難行動	◎発災時の初動がスムーズに行えるように、各家庭における避難に関する事前準備	◇家庭内での避難場所（集合場所）の話し合い ◇備蓄品の準備
危険箇所の把握	◎災害リスクを把握するため、ハザードマップ等による事前の情報収集	◇家庭内でハザードマップ、自宅付近の海拔等の事前確認

##### 【共助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な避難行動	◎避難行動をスムーズに行うため、近隣住民間でのコミュニケーション強化	◇地域の行事への積極的な参加 ◇あいさつ等近隣住民への声かけ
災害時要支援者等の安否確認	◎一人暮らしの方の安否確認等、近隣住民間での助け合い	◇普段から近隣住民の状況を把握 ◇平日・夜間における訓練の実施・参加
危険箇所の把握・共有	○ハザードマップ等を周知するための情報発信	◇人目につきやすい会館等へのハザードマップ掲示
ペットの避難受け入れ	○ペット同行避難における対応の確認	◇地域住民で発災時の対応を事前に話し合う ◇避難場所等でのペット受入体制・環境の検討

【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速・的確な避難行動	◎地域に応じた防災情報の発信	◇スマートフォン等を活用した地域ごとの迅速な情報発信 ◇住民の避難行動を促す的確な情報発信

(2) ハード面の機能強化等

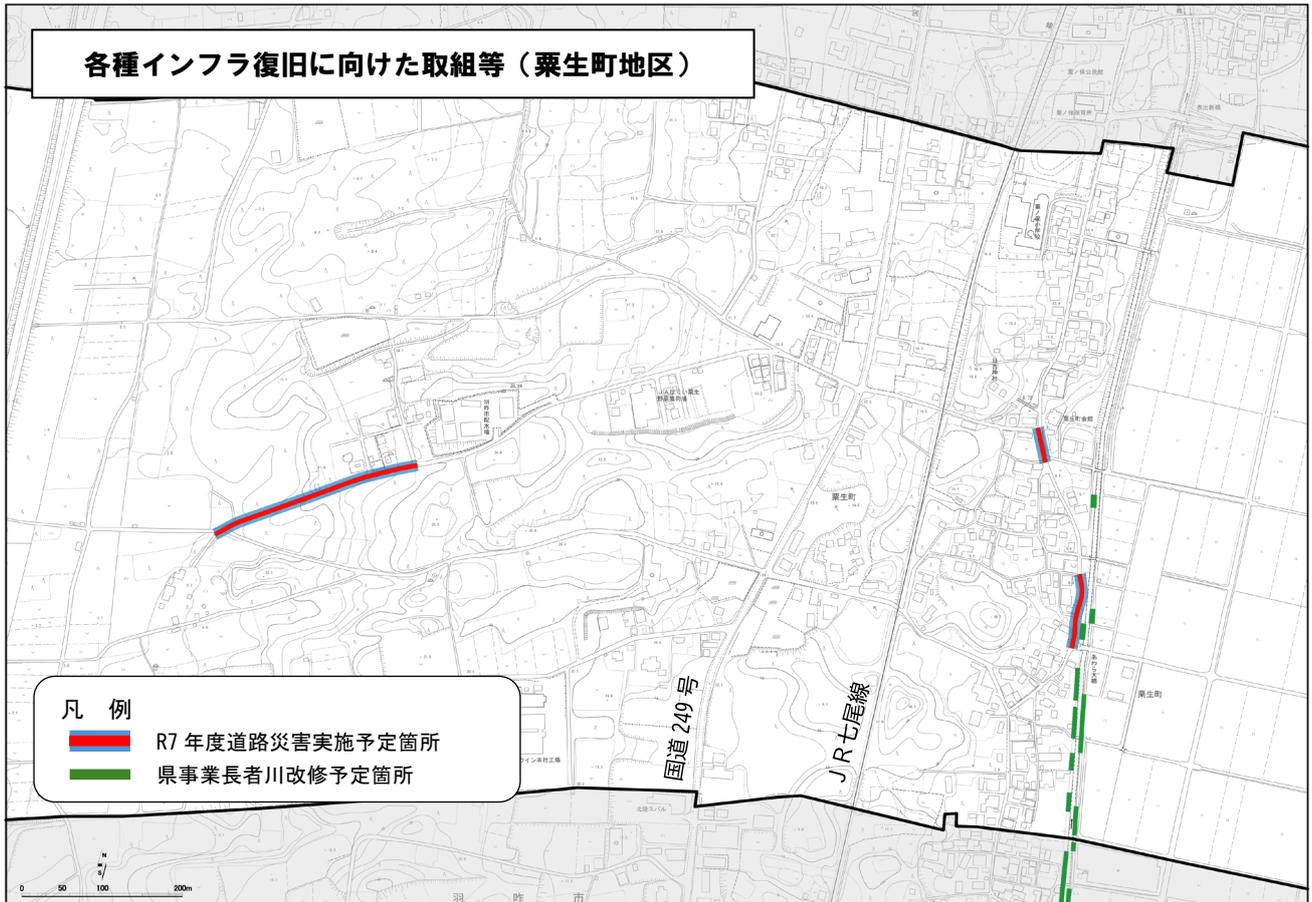
【公助】

取組が必要な事項	取組内容	具体的な活動等
迅速な避難所の開設・運営	◎避難所のスムーズな開設に向けた新たな仕組みの導入	◇避難所における自動解錠鍵箱の導入検討
避難所の環境改善	○避難所における避難生活環境の向上・充実	◇冷暖房設備の導入 ◇生活必需品の備蓄 ◇発災時に活用しやすい備蓄場所の検討
早急な住宅等の修理	○家屋等の早期復旧に向けた体制整備	◇災害時に対応可能な業者ネットワークの形成

## 4 各種インフラ復旧に向けた取組等

行政が実施する地区内の各種インフラ（道路・上下水道等）復旧に向けた取組内容・位置及び実施スケジュールは以下のとおりです。

なお、取組内容等については、状況に応じて随時見直し・修正していきます。

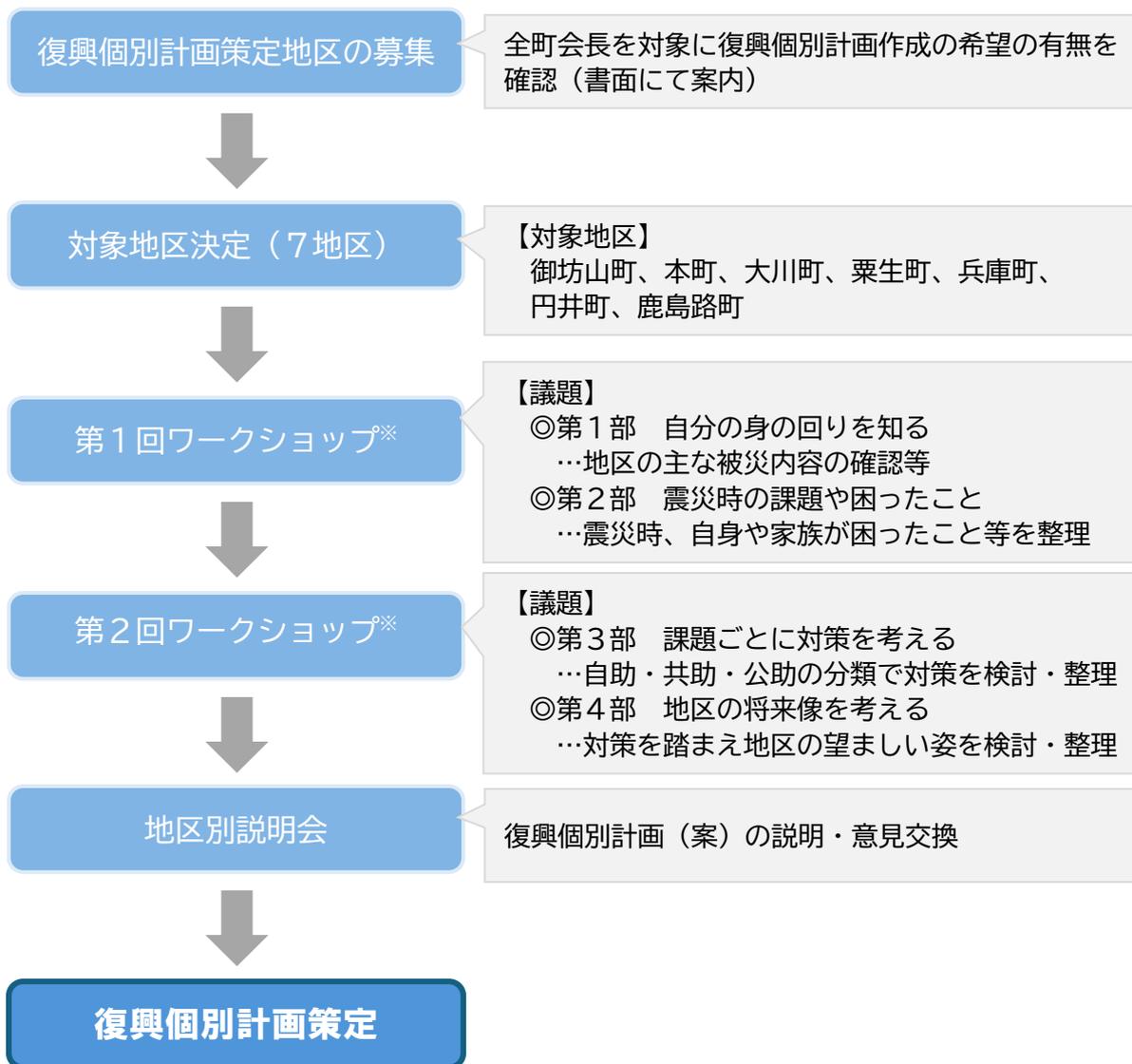


取組内容	R5年度 (R6.1~)	R6年度	R7年度	R8年度~
① 公共災害道路 公共災害復旧事業 (道路災 3件)	被災状況調査	国の災害査定 3件 (12月末済)		
	応急復旧工事 (主にアスファルト舗装)		測量・ 実施設計	
	災害査定準備		本復旧工事 (3件)	復旧完了 目標
② 県事業				長者川改修予定

## 5 資料編

### (1) 復興個別計画策定手順

復興個別計画の策定は、以下の手順で実施しました。



#### ※ワークショップの概要・進め方

- 1グループあたり5名程度を基本に2～3グループで実施
- 各グループには市職員も配置
- テーマに応じて個人の意見等を付箋に書き出し、グループ内で意見交換をしながら共有・とりまとめ
- 各回、グループでのとりまとめ結果を代表者より発表し、意見を共有

## (2) ワークショップ実施概要

### ■第1回

【開催日】令和7年1月21日(火) 19:00~20:30

【場所】粟生町会館

【参加者】町会長及び地区住民 計11人

【議題】第1部 (現状把握) 自分の身の回りを知る  
第2部 (現状把握) 震災時の課題や困ったこと



ワークショップの様子

### 【主な意見(震災時の課題や困ったこと)】

項目	課題・困ったこと	項目	課題・困ったこと
災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すぐに避難できなかった</li> <li>• 避難先がわからなかった</li> <li>• 備蓄を活用できなかった</li> <li>• 棚から本や食器が落ちてきた</li> <li>• ハザードマップ、海拔を確認しておけばよかった</li> </ul>	情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一人暮らし、高齢者の方の安否確認</li> </ul>
		被災後の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 物流が止まって、スーパーに商品がなかった</li> <li>• 避難所に薬や杖などがなかった</li> <li>• ガソリンが足りるか心配だった</li> </ul>
避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 避難所、高台への道が渋滞していた</li> <li>• 平日、夜間の避難活動</li> <li>• 避難する手段がない</li> <li>• 避難経路が通れない</li> </ul>	ハード整備 ・復旧	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 上下水道が使えない</li> <li>• 雨漏れ</li> <li>• 電気やガスも使えなかった場合、どうなっていたか</li> <li>• 危険箇所に立入禁止等の措置がされていなかった</li> <li>• ブロック塀等の倒壊</li> <li>• 家、離れが傾いた</li> </ul>
避難所	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ペット受け入れ可能な避難先が見つからない</li> <li>• どこもいっぱいだった</li> <li>• 避難所の設営、人数の把握</li> <li>• 避難所が寒い、環境が良くない</li> </ul>		

## ■第2回

【開催日】令和7年2月20日（木） 19：00～20：45

【場所】粟生町会館

【参加者】町会長及び地区住民 計11人

【議題】第3部（対応協議）課題ごとに対策を考える  
第4部（将来展望）地区の将来像を考える



ワークショップの様子

### 【地区の将来像案】

フレーズ：みんなの“笑顔”がつながる助け合いのまち／  
コミュニケーションから防災へ。未来を明るく照らす粟生町

### 【主な対策】

自助	最重要対策	普段から家族間で避難（集合）場所を話し合う／ 避難場所や備蓄品、ハザードマップの事前確認
	重要対策	発災後、すぐに避難所に行く（家で大丈夫だと思わない）
共助	最重要対策	防災訓練の実施／地域の行事等を通じて地域のつながりを作る
	重要対策	ペット受け入れ可能な避難所又は休憩所の整備／ ハザードマップ等の看板設置
公助	最重要対策	発災時、避難所の鍵が開けられるような施策／ 地域の実情に応じた避難情報等の発信
	重要対策	避難所に冷暖房設備を整備／ 災害時に家屋の修繕等対応可能な業者を確保